【書式A】　施設名 法人全体　処理番号 7110

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（１）観覧料金改定

【年度計画】
博物館及び展示公開施設の平常展観覧料金を令和２年４月１日に改定する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
（東京国立博物館）
・4月1日より、総合文化展の観覧料金を、一般620円を1,000円、大学生410円を500円に改定した。
（京都国立博物館）
・4月1日より、名品ギャラリーの観覧料金を、一般520円を700円、大学生260円を350円に改定した。
（奈良国立博物館）
・4月1日より、名品展の観覧料金を、一般520円を700円、大学生260円を350円に改定した。
（九州国立博物館）
・4月1日より、文化交流展の観覧料金を、一般430円を700円、大学生130円を350円に改定した。
（奈良文化財研究所）
・4月1日より、飛鳥資料館の観覧料金を、一般270円を350円に、シニア（満65歳以上）の無料措置を対象年齢を満70歳に改定した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、休館等を余儀なくされたが、平常展観覧料金を改定することができた。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 自己収入額の定量的評価について、2 年度は新型コロナウイルスの影響により達成できなかったが、中期計画期間全体を通して、目標値を上回る成果を上げることができた（処理番号 7120 参照）。2 年度には平常展の観覧料金改定を実施するなど、自己収入拡大へ向けた取組を行った。

【書式Ａ】　施設名 法人全体　処理番号 7120

大項目	Ⅲ　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（２）自己収入拡大への取組

【年度計画】
機構全体において、展示事業収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】
新型コロナウイルス感染症の影響により、展示事業等収入については、下表のとおり828,947千円（暫定値）となり、目標を下回った。

	目標値	2年度
展示事業等収入	1,538,510千円	828,947千円（暫定値）

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。
※受託研究・受託事業を除く。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
自己収入額 （展示事業等収入）	828,947千円 （暫定値）	1,538,510千円	－		1,714,563	2,260,173	1,917,262	2,016,303

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスにより博物館の休館などを余儀なくされた影響で、定量的評価の目標値を下回った。 一方で科研費収入や画像貸出等の事業では、一定の成果を上げることができたため、新型コロナウイルスの影響をふまえ、目標を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画期間の最終年度である2年度は、定量的評価については、新型コロナウイルスの影響により達成できなかったが、中期計画期間全体としては目標値を上回る自己収入を得ることができた。したがって、Ａ評価とした。

【書式Ａ】　施設名 法人全体　処理番号 7130

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（３）外部資金の獲得

【年度計画】
機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。
（文化財活用センター）
・独立行政法人国立文化財機構寄附ポータルサイトを構築する。
・前年度から開始した東京国立博物館と共同した所蔵品の修理に対する寄附金募集活動を引き続き実施する。

担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課、文化財活用センター総務担当	事業責任者	事務局長　柏田昭生

【実績・成果】

	目標値	2年度
寄附金	439,574千円	730,711千円(暫定値)

※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。
・国立文化財機構寄附ポータルサイトを8月に開設し、各施設への寄附等についてウェブ決済を可能とした。本ウェブサイトのウェブ決済による寄附金等は計1,915,000円であった。
・元年度に開始した「重要文化財 小袖 白綾地秋草模様（通称〈冬木小袖〉）」（東京国立博物館蔵）の修理費等1,500万円を募る「〈冬木小袖〉修理プロジェクト」を継続して実施し、企業、個人等から9,440,158円の寄附金を獲得した。（元年度からの総計12,692,430円）。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
寄付金等額 （その他寄付金等）	730,711千円 （暫定値）	439,574千円	A		753,812	732,210	827,718	884,196

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。

【中期計画記載事項】
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、（中略）競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：A	中期計画期間を通して計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 7140A

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典

【実績・成果】
①　新型コロナウイルスの影響により、講座・講演会等は中止としたが、オンライン月例講演会やオンラインギャラリートークをウェブサイトに公開し、学べる環境を整備した。
②
・2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、参集型のユニークベニュー利用、講堂・茶室利用が大幅に減少したが、ロケ地撮影利用は緊急事態宣言解除後に需要が回復し、着実に受け入れ件数が戻りつつある。一方で結婚式の中止による婚礼写真の撮影場所として、例年以上の利用があった。
・2年度、話題となった連続TVドラマのロケ地として複数回利用された。放映開始に合わせて、ロケ地専門雑誌にドラマのPRページと合わせて当館のロケ地利用の広告を出稿し、映像制作関係者などに周知した。館内においても、ロケ地利用をPRするポスターを掲出し、来館者へ施設貸出事業のPRを図った。
③2年度も入館者層の拡充と施設の有効利用を目的として、コンサートなどのイベントを実施した。国際交流及び日本文化の紹介を主眼とした「留学生の日」にかかるイベントについては、新型コロナウイルスの流行下のため実施せず。

【補足事項】
②当館施設の利用にあたっては、施設利用者向けの新型コロナウイルス感染拡大防止対策マニュアルを策定し、利用者の遵守を徹底した。

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	2,150件	－	－		747	866	781	680
うち有償利用件数	534件	－	－		529	581	485	457

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2 年度は新型コロナウイルスの影響により、施設利用件数及び収入ともに減少したが、話題となった TV ドラマのロケ地利用等により効果的な施設貸出事業の PR を図ることができ、また、婚礼写真の撮影場所としての利用増加に繋げることができた。3 年度以降も保有資産の有効利用の推進に資するよう取り組む。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 保有資産の貸出については、中期計画期間全体を通じて着実な実績を残せた。次期中期においても貸出事業の積極的な周知活動、1 件 1 件の対応の質を上げることにより、新規利用者、リピーターともに利用増となるように努力する。

【書式Ａ】　施設名　京都国立博物館　処理番号　7140B

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　西尾佐枝子

【実績・成果】
①記念講演会、土曜講座、夏期講座、キャンパスメンバーズ講演会を開催した。
②外部サイトにロケーション撮影の案内を掲載したほか、明治古都館・グランドロビーなどの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内（利用時間、料金等）を当館ウェブサイトに掲載した。
③従前の「京都・らくご博物館」の他に、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、名品ギャラリーの無料観覧やグッズの無料配布を実施した。また、大学・企業・近隣地域等と連携し、講堂や茶室でイベントを開催した。

【補足事項】
①
・記念講演会、土曜講座、夏期講座等については（処理番号 1311B1）参照
・「キャンパスメンバーズ講演会」計２回　平成知新館講堂　参加人数：142 人（処理番号 1313B）参照
②
・展示会、茶会、講演会、コンサート等の会場として、またロケーション撮影スポットとして、各施設の貸出を実施した。
③
・「京都・らくご博物館」計２回　場所：平成知新館講堂　参加人数：96 人
・「秋の華道」　場所：茶室　参加人数：38 人
・「留学生の日」　場所：平成知新館　参加人数：68 人
・「新春大念佛狂言」　場所：講堂　参加人数：196 人
・「芸舞妓 春の舞」　場所：平成知新館講堂　参加人数：178 人
・「春の琵琶」　場所：平成知新館講堂　参加人数：199 人

秋の華道

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	125件	－	－		105	122	165	196
うち有償利用件数	111件	－	－		93	86	143	164

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
明治古都館や平成知新館グランドロビーの施設貸出や貸切鑑賞会の利用案内を当館ウェブサイトや外部ロケ地ポータルサイトに掲載し、積極的に広報を行った。新型コロナウイルスの影響により利用件数は減少したが、新規利用者からの問い合わせは徐々に増加しており、利用に繋がるよう引き続き広報活動に力を入れていく。
また、入館者拡大のために、茶室で新たな華道体験イベントを行い、施設の有効利用を図った。以上のことより、年度計画を達成できたと言える。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルスの影響により2年度の有効利用件数は減少したが、新規利用者からの問合せは増加傾向にある。
また、施設貸出に係る広報・運営に注力するとともに、入館者拡大のための新規体験イベントを毎年積極的に実施し、参加者からも好評を得ており、いずれも満足度は高かったと言える。以上から、中期計画期間を通して中期計画を達成できたと言える。

【書式Ａ】　施設名　奈良国立博物館　処理番号　7140C

中項目	１．　自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサート等を実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
①公開講座、サンデートーク、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。
②法華寺の公演を実施した。
③地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。また、留学生の関連イベントとして「英語落語in奈良博」を11月28日に実施し、63人の参加があった。

【補足事項】
①講座・講演会
　公開講座(5回)、サンデートーク(7回)、特別鑑賞会(4回)、文化財保存修理所特別公開（3回）等
③イベントの実施
・講堂：「英語落語in奈良博」、「お水取り講話と現地解説の会」
・文化財保存修理所：「文化財保存修理所特別公開」
・展示室：「仏像供養（年4回)」、
・庭園・茶室：「おん祭茶会」
・敷地内：「Cornes Osaka Showroom Exclusive Touring to NARA NATIONAL MUSEUM」（フェラーリの展示会場として当館敷地を貸与）
○会場提供
・講堂：「奈良シニア大学講義」、「文化財防火ゼミナール」
・仏教美術資料研究センター：ブライダル撮影、ブライダルフェア等
・庭園・茶室：「珠光茶会」等各種茶会、雑誌撮影、ブライダル撮影等
・敷地内：「氷室神社秋祭り巡業」、「小学生写生会授業」、「秋の天平行列　東大寺参詣行列」、「奈良市ホストタウン事業『コトロゲ2020』」、「春日若宮おん祭」、ブライダル撮影等

英語落語in奈良博

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	62件	－	－		113	111	112	166
うち有償利用件数	22件	－	－		21	19	18	84

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	それぞれの展覧会の内容に即したイベントを多数行うことができた。また、留学生の日に「英語落語 in 奈良博」を実施し、全内容英語で開催した。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画最終年度にあたる2年度においては、ユニークベニューの一環としてフェラーリユーザー展示会場等、施設利用を促進し、地方自治体と連携したイベントを実施することで、博物館の認知度を向上及び自己収入を獲得することができた。中期計画期間を通しても、旅行会社やフォトスタジオなど、民間企業等による施設利用の対応に尽力し、順調に施設を活用し、自己収入の増加に資することができたため、中期計画は順調に達成できたと評価できる。

【書式Ａ】　施設名　九州国立博物館　処理番号　7140D

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（博物館４施設）
①講座・講演会等を開催する。
②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。
③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

担当部課	交流課 総務課	事業責任者	課長　山野孝 課長　執行正一

【実績・成果】
（博物館４施設）
①新型コロナウイルスのため利用を休止していたスーパーハイビジョンシアターで、11月よりミュージアムトークを再開した。また、特別展・特集展示等の講座・講演会は新型コロナウイルス拡大防止のため開催しなかったが、当館ウェブサイトにて、「文化財のミ･カ･タ」、「文化財のヒミツ」として、当館文化財の紹介動画を配信した。
②ミュージアムホールは特定天井改修工事及び新型コロナウイルス感染予防対策のため、一般の方への施設貸出ができなかった。茶室については11月より貸出を再開した。
③3階特別交流展示室前ロビー等で博多祇園山笠関連イベントを開催、1階エントランスでミュージアムコンサート(7回)を実施して、施設の有効利用を図った。

【補足事項】
③
・日本文化の紹介
博多祇園山笠関連展示（3階特別展示室前ロビー）11月25日～3年1月11日
博多祇園山笠大パネル展示（記念写真撮影用）（1階ミュージアムホール前）12月1日～3年1月11日
・ミュージアムコンサート（2回/日）（1階エントランス）
3年1月 3日　参加者数：130人
2月 6日　参加者数：140人
2月13日　参加者数：130人
2月20日　参加者数：170人
2月27日　参加者数：140人
3月13日　参加者数：130人
3月20日　参加者数：110人
・春の桜コンサート（2回/日）
3月27日　参加人数：300人
3月28日　参加人数：170人

ニューイヤーコンサート(3年1月3日)

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	114件	－			355	280	328	349
うち有償利用件数	4件	－	－		116	96	75	77

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
新型コロナウイルス感染拡大の影響やミュージアムホール吊天井の工事により年間を通じた施設の有効利用ができなかったが、11月より感染予防対策を施しながら、日本文化の紹介及び1階エントランスでミュージアムコンサートや、2日間に渡る屋外での桜コンサートを実施することができた。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
今中期全体を通して、施設の有効利用の推進を図るため、本来業務に支障のない範囲で会議やイベントのための貸与を行い、中期計画を達成した。
また、2年度はコロナ下の施設の有効利用に資するため、利用者向けに新型コロナウイルス感染拡大防止対策利用ガイドを作成した。
次期中期年度においても新型コロナウイルス感染状況を見ながら、コンサートや講演会等を行うことで、施設の有効活用を模索していきたい。

【書式Ａ】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 7140E

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所２施設）
　セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長　川島　美奈子

【実績・成果】
・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図ったが、新型コロナウイルスへの対応のため、外部への貸し出しは制限した。
・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを2年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に当研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。
・外部機関への施設の有償貸付は、新型コロナウイルスへの対応のため、実施できなかった。

【補足事項】
・第54回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」

オープンレクチャーの様子

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	125件	－	－		186	185	200	125
うち有償利用件数	0件	－	－		7	9	10	7

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	施設の有効利用の促進を図ろうとしたが、2年度は新型コロナウイルス感染症対策の影響で施設の外部貸し出しは概ね制限することとなったため、利用件数は増加しなかった。なお、外部機関への有償貸付は新型コロナウイルスの対応により、実施できなかった。

【中期計画記載事項】
　（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	今中期計画期間5年目である2年度は、元年度に引き続き、第54回オープンレクチャーを実施することができた。2年度については、新型コロナウイルス対策のため、貸付はできなかったが、中期計画の5か年を総括して順調に遂行されたといえる。

【書式Ａ】　施設名　奈良文化財研究所　処理番号　7140F

中項目	１．自己収入拡大への取組
事業名	（４）保有資産の有効利用の推進

【年度計画】
（文化財研究所２施設）
セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。

担当部課	研究支援推進部研究支援課	事業責任者	課長　不藤　忠義

【実績・成果】

施　設　名	2年度
平城宮跡資料館　講堂	11件　（内　有償貸与　0件）
平城宮跡資料館　小講堂	19件　（内　有償貸与　2件）
飛鳥資料館　講堂	1件　（内　有償貸与　0件）
その他（収蔵庫等）	12件　（内　有償貸与　9件）
合　　計	43件　（内　有償貸与　11件）

【補足事項】
元年度実績

施　設　名	元年度
平城宮跡資料館　講堂	77件　（内　有償貸与　4件）
平城宮跡資料館　小講堂	111件　（内　有償貸与　4件）
飛鳥資料館　講堂	21件　（内　有償貸与　0件）
その他（仮庁舎・収蔵庫等）	15件　（内　有償貸与　11件）
合　　計	224件　（内　有償貸与　19件）

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
施設の有効利用件数	43件	－	－		296	347	232	224
うち有償利用件数	11件	－	－		52	35	28	19

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年利用があるイベントや集会、学会等のほとんどが中止になったことに加え、平城宮跡資料館講堂では改修工事（11月～3年2月）が行われたため、有効利用件数は2年度から大きく減少したものの、可能な限り施設の有効利用を図り、有償貸与は2件を確保したところであり、評価についてはＢ評価とした。

【中期計画記載事項】
（略）保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。

【中期計画に対する評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
2年度は新型コロナウイルス感染症や平城宮跡資料館講堂改修工事のため、利用件数は減少したが、中期計画期間を通じて保有資産の有効利用の目標を達成しており、期間全体を通してみれば中期計画を遂行できた。Ｂ評価とした。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 7300

中項目	３．決算情報・セグメント情報の充実等
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等

【年度計画】
独立行政法人会計基準に従い、引き続き適切な決算情報・セグメント情報の開示を実施する。

担当部課	本部事務局財務課	事業責任者	課長　數馬厚人

【実績・成果】
元年度に引き続き、元年度決算（2年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（平成30年9月改訂）に従い、以下のとおり公表情報の充実を図った。
・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。
・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。

【補足事項】

【定量的評価】項目	2年度実績	目標値	評定	経年変化	28	29	30	元
－	－	－	－		－	－	－	－

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	計画どおり取組を実施し、年度目標を達成した。

【中期計画記載事項】
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	中期計画期間を通して計画どおり取組を実施し、中期目標を達成した。